



Title	「オーストラリアン・カリキュラム」を読む：5年生の英語を事例として
Author(s)	青木, 麻衣子; 浮田, 真弓
Citation	日本語・国際教育研究紀要, 24, 136-148
Issue Date	2021-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/80912
Type	bulletin (article)
File Information	24_8.pdf



[Instructions for use](#)

「オーストラリアン・カリキュラム」を読む

—5年生の英語を事例として

青木麻衣子、浮田真弓

「オーストラリアン・カリキュラム」を読む —5年生の英語を事例として

青木麻衣子、浮田真弓

要 旨

オーストラリアでは2010年代初頭以後、同国初のナショナル・カリキュラムである「オーストラリアン・カリキュラム (Australian Curriculum: AC)」が全州で運用されている。汎用的能力の育成に重きをおいた同カリキュラムは、時代的要請に即したのものとして、同国の多文化状況における運用とともに注目されてきたが、カリキュラムそのものの特徴を端的かつ具体的に示した論稿はない。本稿では、5年生の英語を事例として、ACの要約を紹介し、その特徴を整理した。本稿が、今後のカリキュラム研究および日本におけるカリキュラム開発や教育実践に資する資料を提示できればと考える。

〔キーワード〕 オーストラリアン・カリキュラム、英語、汎用的能力、リテラシー、マルチモーダル

1. はじめに—本稿の目的

本稿では、多文化国家オーストラリアで2013年に導入された同国初のナショナル・カリキュラムである「オーストラリアン・カリキュラム (Australian Curriculum: AC)」の構造と内容を、小学校5年生の英語を例に紹介し、その特徴を提示する。ACは、いわゆる教科にあたる主要学習領域とともに、キーコンピテンシーや21世紀型スキルといった、いわゆる汎用的能力の育成を重視する点に特徴がある。日本でも近年、アクティブ・ラーニングの推奨に見られるように、初等中等教育段階においても、問題解決能力等の汎用的な資質・能力の育成が、教科の枠を超え求められている。

日本では、国立教育政策研究所を中心に、学習指導要領の改訂のため、各国における学校教育カリキュラムにかんする基礎資料の作成が行われてきたものの、そこで確認できるのは、国際比較という目的上当然のことと

はいえ、カリキュラムの構造や項目についての概要である¹⁾。オーストラリアのような多言語・多文化国家における「多様性」を糧とした教育実践は、グローバル化のさらなる進展とともに一層の関心を集めているが、ACにかんする研究でも、導入後5年以上が経過したものの、その指針となるカリキュラムの内容を具体的に引き上げた論考はない²⁾。

そこで本稿では、今後の研究の基礎資料の提供を目的に、ACそのものに注目し、特定学年（5年生）の特定教科（英語）で、具体的にどのような知識・スキルの獲得が、どのような手順・方法で目指されているのかを紹介する。5年生を引き上げた理由は、それが同国で全国学力調査（NAPLAN）の対象学年とされているとともに、初等教育から中等教育への移行期にあたり、汎用的能力の育成とともに「教科」の枠がより重視される傾向が強まる時期だからである。また、英語の領域を見ることで、汎用的能力のなかでも「学力」に直結するとして特に重視されるリテラシーの育成がどのように図られようとしているのかの材料が得られると考えた。紙幅の都合上すべての項目を引き上げることはできないが、今後の日本におけるカリキュラム研究・改革等を考える上で、またACの特徴の一端を理解する上での参考になれば幸いである。

2. オーストラリアの社会状況と学校教育

オーストラリアは、国内に多様な背景を持った人々が居住する多文化・多言語国家である。第二次世界大戦後の大量移民導入計画以後、戦略的な移民・難民の受け入れを続けており、国内の大半は「外国」にルーツを持つ人々である。最新の国勢調査（2016）によれば、人口の約四分の一は外国生まれであり、両親の双方もしくはいずれかが外国生まれの割合も約半数と高い³⁾。かれらの出身国・地域の筆頭はいまだに宗主国であるイギリス（England）であるものの、近年では特に中国やインドをはじめとするアジア地域出身者の急増が著しい⁴⁾。

一方、家庭で使用されている言語に目を向けると、国内で使用されている言語は300を超えるとはいえ、英語のみを使用する人の割合が増えている⁵⁾。また近年では、永住権や短期滞在等のビザの取得に際し「オーストラリア価値声明（Australian Value Statement）」への署名が求められているが、その中でも、同国の文化的多様性の尊重とともに、オーストラリアの国語（national language）としての英語の重要性やオーストラリアおよ

びオーストラリア国民への忠誠が確認されている。2000年代に入り同国の移民政策では、「多文化主義 (multiculturalism)」に代わり「シティズンシップ」ということばが好んで使われるようになったが、国内の多様化の一層の進展に伴い、国家としての枠組みの強化も同時に求められてきたと言える。

この「統一性」を求める動きは、学校教育の分野にもうかがうことができる。オーストラリアは元来、連邦制を採用しており、憲法規定に基づき、教育に関する権限は各州政府が持つ。そのため、教育制度はもとより、学校教育カリキュラムも州により異なる。しかし、1980年代後半に連邦および各州教育大臣の合意により「国家教育指針」が策定されて以降は、国家としての「統一性」が求められてきた。特に、1990年代後半以降の全国学力調査の推進は、教育基準の「統一化」をもたらすと同時に、教育制度・内容の「統一化」「共通化」も推し進めてきた。

2008年には、先の国家教育指針である「メルボルン宣言」で提唱された同国発のナショナル・カリキュラムの開発が開始され、2013年以後、段階的に各州で導入されている。2020年からは、義務教育後の後期中等教育段階でもその使用が開始され、それによりすべての教育段階および学習領域で、統一した指針・基準に従い教育が提供されることとなった。

A Cの開発・導入を導いた「メルボルン宣言」では、①オーストラリアの学校教育は、公正 (equity) と卓越性 (excellence) を促進する、②オーストラリアのすべての若者は、成功した学習者、自信に満ちた創造的な個人、活動的で知識のある市民となる、という二つの国家教育目標が掲げられたが⁶⁾、ナショナル・カリキュラムとしてのA Cの運用も、最終的には、これらの目標の実現を目指している。

3. オーストラリアン・カリキュラムの特徴とその構造

現在A Cは、就学前教育段階から12年生までのすべての教育段階をとおして、すべての学習領域で使用されている。その構成は、①教科 (専門) ごとの学習領域 (discipline-based learning areas)、②21世紀を生き抜く上で必要不可欠なスキルとしての汎用的能力 (general capabilities)、③現代的な領域横断の優先事項 (contemporary cross-curriculum priorities) の三要素から成る⁷⁾。A Cはウェブサイトでの公開を原則とするため、従来の学習領域ごとのカリキュラムのほか、特定の汎用的能力や領域横断の優先

事項を軸に、それらの教授・学習のながれを示すことができる。

各学習領域のカリキュラムは、①理念 (rationale)、②目標 (aims)、③カリキュラムの内容 (curriculum content)、④達成スタンダード (achievement standards) の項目で構成される。その大部分を占める「カリキュラムの内容」では、「内容に関する説明 (content descriptions)」とそこで習得すべき知識、スキル等が具体的に示される。

例えば、本稿で取り上げる「英語」では、児童生徒がオーストラリア英語についての理解を深め、その習得を支援するのを目的に、「言語 (Language)」「文学 (Literature)」「リテラシー (Literacy)」という三つのストランドが用意されている。これら三つのストランドは、その下位にさらにそれぞれ四～五つのサブストランドを構成する。また、各サブストランドに対応するかたちで「内容の詳細 (curriculum elaborations)」も併記されるが、これは実際の教育活動に従事する学校および教員が、児童生徒の実態に即して学校カリキュラムを開発する際の補足資料やヒントとして用意されているものである (図1参照)。

汎用的能力は、各学習領域においては、それが適用可能な場合には「内容に関する説明」および「内容の詳細」で示される。先にも言及したように、ACは原則すべてウェブ版のみで公開されるため、各能力を示すアイコンを用い、各内容のどの項目でどの能力が育成されるのかが提示されて

Language	
Language variation and change	Elaborations
Understand that different social and geographical dialects or accents are used in Australia in addition to Standard Australian English (ACELA1515)	<ul style="list-style-type: none"> recognising that there are more than 150 Aboriginal languages and two Torres Strait Islander languages and that they relate to geographic areas in Australia recognising that all languages and dialects are of equal value, although we use different ones in different contexts, for example the use of Standard Australian English, Aboriginal English and forms of Creole used by some Torres Strait Islander groups and some of Australia's near neighbours
Language for interaction	Elaborations
Understand that strategies for interaction become more complex and demanding as levels of formality and social distance increase (ACELA1516)	<ul style="list-style-type: none"> identify and appreciate differences in language used in diverse family settings

【6年生】

「英語」は Language, Literature, Literacy の三つのストランドにより構成、その下にサブストランドを設け、具体的な内容を記載

学校・教員がカリキュラムを開発する際の補足・ヒントを提供

ACARA | The Australian Curriculum | Version 2.0 dated Monday, 17 October 2011 61

図1 AC英語に示される「カリキュラムの内容」例

出所：ACARA, *The Australian Curriculum English Version 2.0*, October 2011, p.61. より抜粋

いる。各「内容」に関する記述においては、各項目で一つの汎用的能力が示されていることもあれば、二つ以上の能力の育成に言及されていることもある（後段、カリキュラムの抄訳参照）。

「内容」に続いて、ACでは、「達成スタンダード」が示されるが、これは、児童生徒が一般的に理解し、できるようになることを明示したものである。評価の基準はもちろん、教員が評価を行う際の目安として活用できるように、児童生徒の作業・成果例（student work samples）も盛り込まれている。これらの情報も、ウェブサイトでの公開を原則とするカリキュラムの強みを生かし、オンライン上で随時更新されている。

次節では、具体的カリキュラムの記載（要点の抄訳）を見ていく。

4. 5年生「英語」のカリキュラム（要約）⁸⁾

「英語」という教科は、すべての若いオーストラリア人の学習・発達の中心に位置するものである。それは、自信を持ったコミュニケーター、創造力あるシンカー（thinker）、そして教養ある市民の育成に資するものである。個々の学習者は、英語の学習をとおして、他者およびかれらを取り巻く世界を分析し理解し、それらと交渉し関係性を構築する。英語の学習は、リーディングとリテラシー・スキルの発達にとって重要である。それは、若者が教育・訓練・その後の職場で必要とされる知識やスキルの発達を助けるものである。また、かれらが倫理的で思慮深く、教養があり、かつ活動的な社会の構成員となることを助けるものである。この点で、「AC英語」はオーストラリアの将来に責任を持つひとびとの理解・態度・能力の発達において重要な役割を担うことが明らかである。

オーストラリアは言語・文化的に多様な国であるため、オーストラリア社会への参加の多くの部分を標準オーストラリア英語（Standard Australian English：SAE）が担っている。さらに、英語に熟達することは、世界的にも価値がある。「AC英語」は、国家建設および国際化の双方に貢献するものである。

「AC英語」はまた、児童生徒がかれらの経験の射程を拡張させるために、創造的かつ批判的に文学とかかわるように促す。アボリジナルおよびトレス海峡島嶼民は、オーストラリア社会、オーストラリアの現代文学、そして文学的遺産（heritage）のなかで、かれらの知識・伝統・経験を表象し、それらの相互作用により発展してきた。「AC英語」は、その貢献に

価値を置き尊敬し、一層の追求をはかるものである。また、オーストラリアとアジアとの関係性も強調する。

「AC英語」は、児童生徒に以下を保証することを狙いとする。

- ・ますます複雑化し、洗練された多様なテキストにおいて、正確性、流暢さ、合目的に、読み、眺め（viewing）、話し、書き、創造し、そして省察するのを学ぶこと。
- ・すべての種類の英語を尊重し、認め、使うこと。また、感情を表わし、情報を整理し、考えをまとめ、他者と協議し、興味関心を持たせ、説得し、かつ議論するために必要な豊かさとし、力強さを発達させること。
- ・SAEが、話し言葉・書き言葉でどのように機能するのかを理解すること。また、言語的でない要素とどのように組み合わせられて意味が生まれるのかを理解すること。
- ・文章の審美的観点を追求することへの関心やそのためのスキルを発達させること。よく知られた文学に対する理解を発達させること。

就学前教育段階から10年生まで（F-10）の英語のカリキュラムは、三つの相互に関連するストランドにより組織される。それらは児童生徒のSAEに関する理解と活用の成長を支援するものである。各ストランドはその他のストランドと創造的かつ柔軟なやり方で関わりをもち、お互いにお互いを豊かにさせる。すなわち、カリキュラムという素材（ファブリック）は、各ストランドの中の糸（スレッド）により強化されるのである。

三つのストランドが一緒になって、各学習領域における知識の枠組みの統合を促し、F-10のリスニング、リーディング、ビューイング（viewing）⁹⁾、スピーキング、ライティングに関する児童生徒の知識、理解、スキルの発達に焦点を当てる。三つのストランドは、以下のとおりである。

- ・言語：英語という言語について知ること。
- ・文学：文学テキストを理解し、楽しみ、それにこたえ、分析し、創造すること。
- ・リテラシー：英語の活用方法の幅を広げること。

カリキュラムの内容

* 下記記述に示される①～⑥は、そこで育成が求められる汎用的能力¹⁰⁾。
A C上ではアイコンで示されている。

- ①リテラシー (Literacy)
- ②ICTスキル (Information and communication)
- ③批判的・創造的思考力 (Critical and creative thinking)
- ④個人的・社会的能力 (Personal and social capability)
- ⑤倫理的理解 (Ethical understanding)
- ⑥異文化理解 (Intercultural understanding)

言語 (略)

文学

文学と文脈

・文学には社会的文化的背景や歴史的な文脈が描かれている。作品の中にある信条や伝統、習慣などを読んで説明する。(オーストラリアにおいては)先住民や遠隔地に住む人々と都会に住む人々との文化的な多様性を理解する。①③④⑥

文学への反応

・文学を受容(文章に限らず映像で受容する場合も含む)するだけではなく、適切にメタ言語を使用して様々な観点から議論する。たとえば、「この登場人物は彼らが行動したようにふるまうべきでしたか?」といった疑問を提出したり、議論したりする。①③④⑤

・特定の受容者に向けてのアイデアや文章構造、言語の特徴の効果を表現するためのメタ言語を使用する。自分以外の他の人々に口頭、書記言語、デジタル・メディアを使用して、解釈や意見を伝達する。その際、他者の意見を尊重すること ①②③④

文学の評価

・文学作品を様々な観点から評価する。観点が異なれば、作品の解釈は異なる。文学作品の語り手の声(語り手の属性や立場)を認識し、作品の受容者が語り手の声を通じて作品世界を経験する語り手個人や存在がどのようなものか理解すること、特に一人称の語りでは作品の受容者が内容に共感しやすいため、その効果(良きにつけ悪きにつけ)について話し合う。語り手の異なる作品(視点が異なる作品)を読み、受容者が得る情報、共感

を与える方法などを調べ、作者がその視点を選んだ理由について話し合う。

①③④⑥

・音声化の技法や比喩、擬人法などを理解し、解釈すること、たとえば、直喩や隠喩を含んだ比喩的な文章は、たとえば、『私の愛は、赤い、赤いバラのようです』『タイガー、タイガー、夜の森では、ひどく明るい』と
いうように異なった事柄をなぞらえるのに使う、そして、想像力に訴える
ことが、世界を見る新しい方法を提供することを話し合う。①③④⑥

文学の創作

・生徒たちが受容したテキストで表現された世界をもとに現実的なあるいは想像的な設定や登場人物を使用して文学的なテキストを作成すること

①②③

・選択した作家の構成、アイデア、文体の特徴で文学テキストを書く。
様々な典型的なテキストのフィクション要素をもとに書くこと、要素とは、
たとえば主なアイデア、人物造形、設定（時間と場所）、語りの視点、修辭
的技巧—たとえば修辭的な言語、直喩、比喩、擬人法—、デジタルやスク
リーン・テキストの非言語的な約束事も同様である。①②③

リテラシー

文脈の中の文章

・テキストのアイデアと視点が慣用表現や客観的主観的な言語を含む語彙
によってどのように伝えられるか、そして、これらが文脈によってかわる
可能性があること、文学作品で物語の声—受容者がそれを通じて物語を経
験する個人または集団—を確認すること、とりわけ一人称語りの感情移入
と関りへの影響を話し合うこと ①③④

他者との相互作用

・公的や公的でない状況で展開する内容を理解する、児童自身の経験とア
イデアをつなげること、話者の意図をはっきりさせるために特定の質問を
し、会話を動かし続ける建設的なコメントをし、表現される考えを見直し、
仮の結論を伝えること ①③④

・相互作用のスキル—言い換え、質問、非言語的なてがかりの解釈—を使
用すること、異なる受容者と目的に適切な語彙と声の効果を選ぶこと
二人組、グループ、学級、学校 公的でない会話や議論、プレゼンテーショ
ンなど、話したり、聞いたりする状況に参加すること。対話と議論のため

の効果的なストラテジーを使って、はっきり話すこと、他の人が反応しやすいように適切に休止をとること、関係のある質問をし、児童自身の反応を他者の貢献に結び付けること。公的や公的でない場面のために、語彙や文章構造を選択する、新しい概念やトピックを報告、説明をして他の人々を説得する。公的なプレゼンテーションにおいて、受容者の理解のための効果が認められるトーン、ボリューム、ピッチとベースなどの声の効果を経験すること ①③④

・特定の受容者と目的のために正確でかつ連続した内容とマルチモーダル¹¹⁾の要素を取り入れて、プレゼンテーションを計画し、予行演習し、実行する。ある話題についてのレポート—論理的に連続したアイデア、受容者がより関心を持ち、理解するためにグラフィックや音、ビジュアルを含んだ詳細と理解を強化するためのグラフィックス、音と映像を含む細部をもった—を提供することを計画する。①②③④

解釈、分析、評価

・想像に富み、情報があり、説得力のあるテキストで使われる特徴的なテキストの構造と言語的特徴を確認し、説明する。コミュニティの活動、たとえばローカルな地域維持問題に及ぼす働き、を主唱しているテキストの特徴がどのようにテキストの目的にあっているのか説明する ①③

・特定の目的のために適した文章を調べるストラテジーでテキストを読む。文章を調べるストラテジーは例えば、予測して意味をモニターし、ざっと読み、見ることである。情報の正確さと仕事に役立つように適切にテキストを選び、使うこと。新しい読書タスクのために専門的な語彙と概念知識をもたらす。比較的なじみのない話題の資料にアクセスするための単語識別、セルフモニタリング、自己訂正のストラテジー—調べ物をしているときに、目印になる語彙を見つけ、調べる本筋と離れたものに気を取られていることに気づき、本筋にもどったりすること—話題とタスクにあった情報かどうかをチェックするためにざっと読み、見ること。楽しみのために、そして、情報を見つけ、使うために幅広い想像に富む、情動的な、説得力のあるテキストを読むこと ①③④

・いろいろな印刷とデジタルの情報源からアイデアを統合し、結びつけ、情報分析のための理解ストラテジーを使用する。調べる目的を確認して、テキストを見つけ、情報を集め、まとめることを含む調べる技術を使用する、その相対的な価値と印刷とデジタル情報源の正確さを評価する、いく

つかの情報源から要約すること ①②③

テキストの作成

・目的とオーディエンスに適したテキストの構造や言語の特徴、イメージと音を選択して、想像的で情報を含んだ、説得力のある印刷物とマルチモーダル・テキストを計画し、下書きし、発表する

・書くための情報を集め、まとめるために印刷物やデジタルの材料による研究結果を使うこと、書く目的にあったテキスト構造を選ぶこと、テキストの構造、トピックの提示、結論へと導く段落の流れよく情報のまとまりをつけることによって、内容に連続性をもたせる。目的に応じて術語などの語彙を使う、テキストを段落を使って配列して表現する。より複雑な文、関連した動詞の時制、発音の振り返り、効果的な表現のための副詞、名詞の句やフレーズ、などを使用する ①②③

・生徒や他者の文章を書こうとする文章の種類や目的に応じて推敲する文章の流れと感覚のために編集する、アイデアの組織化、言葉の選択、要素が望ましい効果を持たないならば、新しい方法に修正して、試してみる

①③

・読みやすく、流れよく、自動的に読めるようになるような手書きを作成する。幅広い書く目的にあった流暢さと読みやすさで書く ①

・画像や音声の要素を選択、編集、配置し、書かれたテキストを書き、編集し、発表するワープロなどのソフトを使用する。具体的には、流暢で正確で読みやすいメールや手紙を書く、受容者¹²⁾が聴きたいことの理解を表現する ①②③

5. おわりに

本稿では、以上のように、これまであまり具体的に目にするのがなかった、オーストラリア初のナショナル・カリキュラムであるACの内容を、5年生の英語を例に紹介した。今回扱ったのは一部に過ぎないため、そこから言えることは少ないものの、ACの特徴と言えらる2点を、以下に指摘して、本稿のまとめとする。

第一に、「英語」という学習領域（教科）で扱われる範囲・内容が多岐に富んでおり、英語の学習をとおして多様な知識・スキルの育成を目指していることが明らかである。これは、リテラシーの学習において、「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能はもちろん、「ビューイング」といっ

たマルチモーダルなスキルをその範疇に含めていること、さらには「創造する」といった主体的能力の育成を重視していることに主にうかがえる。また、「文学」においても、いわゆる国際的に有名な文学作品はもちろん、オーストラリア先住民（アボリジナルおよびトレス海峡島嶼民）による作品の重要性も指摘されている。この点は、日本の国語教育における文学作品の理解が、作品の（感情面での）解釈に重きが置かれているのとは対照的に、文学作品による「文化」理解と密接に関連づけられている点でも興味深い。

第二に、一方で、オーストラリア国民・国家を構築するためのシステムである「国語」としての英語（S A E）という位置づけも明確に打ち出している。ナショナル・カリキュラムの開発をめぐる論争・研究ではとかく「歴史(History)」の領域やシティズンシップ教育(Civics and Citizenship)が取り上げられることが一般的だが、先住民や移民を含め文化的多様性を認めるオーストラリアにありながらも、それらをすべて包摂する「オーストラリア」の独自性が、英語という学習領域において、日々このS A Eの習得により、確認されていると考えられる。

この「研究ノート」では、カリキュラムの抄訳を中心に紹介したが、これを足掛かりとして、今後、現場ではどのような授業実践が行われているのか、また日本の学習指導要領と比較してどのような特徴があるのか等、検討していければと考えている。

注

- 1) たとえば、国立教育政策研究所教育課程研究センター『教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書』（1～4）、2010～2013年など。
- 2) オーストラリアのカリキュラム教育に関する研究でも、論文データベース等で調べた限り、カリキュラムそのものを紹介・分析したものは、「歴史」や「シティズンシップ教育」等、カリキュラムと国家との関係性を問題視する論考以外、ほとんど見られない。「英語」では初期にまとめられたものとして、Brenton Doecke, Graham Parr, Wayne Sawyer, *Creating an Australian Curriculum for English, Phoenix Education*, 2011.がある。また、AC運用の実践報告は存在する。
- 3) Australian Bureau of Statistics (ABS), 2071.0-Census of Population and Housing: Reflecting Australia-Stories from the Census 2016,

Cultural Diversity in Australia, 2016, (<https://www.abs.gov.au/ausstats/abs@nsf/Lookup/by%20Subject/2071.0~2016~Main%20Features~Cultural%20Diversity%20Article~60>, 2020.12.08アクセス確認)

- 4) 同上
- 5) 同上
- 6) Ministerial Council on Education, Employment, Training and Youth Affairs (MCEETYA), Melbourne Declaration on Educational Goals for Young Australians, 2008, p.8.
- 7) 学習領域、汎用的能力、領域横断の優先事項は、以下のとおりである。学習領域—英語 (English)、算数・数学 (Mathematics)、科学 (Science)、保健体育 (Health and Physical Education)、人文社会 (Humanities and Social Sciences)、文学・芸術 (The Arts)、科学技術 (Technologies)、言語 (Languages) の八つ。汎用的能力—リテラシー、ニューメラシー (数的処理能力)、ICTスキル、批判的・創造的思考力、個人的・社会的能力、倫理的理解、異文化理解の七つ。領域横断の優先事項—持続可能性 (sustainability)、アボリジナルおよびトレス海峡島嶼民の歴史と文化 (Aboriginal and Torres Strait Islander Histories and Cultures)、アジアとオーストラリアとアジアとの関わり (Asia and Australian Engagement with Asia) の三つ。
- 8) 2020年9月現在ACARAの「オーストラリアン・カリキュラム (Australian Curriculum) ウェブサイトに掲載されているものである。(<https://www.australiancurriculum.edu.au/f-10-curriculum/>) 学習領域を「英語」に、学年を「5年生」に設定し、カリキュラム全体をダウンロードした後、概要およびカリキュラムの一部を翻訳した。
- 9) テキスト (特にマルチモーダル・テキスト) を眺めること・読むこと
- 10) 汎用的能力にはこの六つのほかに、ニューメラシーが含まれる。
- 11) 「マルチモーダル」とは、音声とテキスト、画像等から構成されているコンテンツを指す。
- 12) 「受容者」とは、テキストなどの受容者のこと。

あおき まいこ (高等教育推進機構・国際教育研究部准教授)

うきだ まゆみ (岡山大学大学院教育学研究科・国語教育講座教授)

Abridged Translation of Australian Curriculum, Y5 English

AOKI, Maiko, UKIDA, Mayumi

The aim of this paper is to introduce the contents of the Australian Curriculum, which was implemented since 2013 as the first National Curriculum in Australia, and to understand its features. This work is meaningful as a reference for future research on the operation of the Australian Curriculum and curriculum development in Japan. Through consideration of the abridged translation of the Curriculum, Y5 English, it is clear that the Australian Curriculum has a wide range of the contents, texts and skills and that the position of the Australian Standard English as a National Language is emphasized as well as the respects for Indigenous and multicultural perspectives.